

9. 第13回ソフトボール競技実施要項

1. 競技種目

男子ソフトボールとする。

2. 競技規定

大会開催年度の(財)日本ソフトボール協会オフィシャル・ルール及び本大会申合せ事項による。

3. 出場資格

- ① ブロック予選大会において、優勝・準優勝の各1チームに開催地元チーム1チームを加えた計19チーム以内とする。なお、開催地チームが予選大会において優勝又は準優勝の場合は、地元開催チームの権利を失うものとし、出場チーム数は18チーム以内になるものとする。
- ② 但し、優勝・準優勝チームが本大会に出場できない場合は、当該ブロックの協議により、代替チームが出場できるが、代替チームに関する責任は代替チームを選出した当該ブロックが全て負う。
- ③ 出場するチームは1チームで、当該ブロック内の他のチームから選手を2名以内で補強することができる。
- ④ 上記の規定にかかわらず、出場できるのは1都道府県につき2チームを原則とする。
- ⑤ 上記「①、②」によっても、19か18チーム未満の場合は前年度予選大会での各ブロック内のチーム数の多い順から1チームずつ推薦する。この配分順は大会年度の前年度日本ろう者スポーツ協会全国委員会で抽選等により決定する。(12. その他の④に注意)

4. チームの編成

- ① 1チームの編成は、監督を含む選手20名以内とする。
- ② コーチまたはマネージャー、スコアラーが選手として出場することはできるが、選手として出場する場合は、20名の範囲内で登録しなければならない。
- ③ 監督の背番号は30番、主将の背番号は10番とする。

5. 試合球

検定ゴム3号球(内外)とする。

6. 競技方法

- ① 対戦方法はトーナメント方式とする。
- ② 試合は、7イニング制と時間制を併用し、どちらか先に達した時点で試合終了とする。7回を終了して同点の場合は8回よりタイブレーカーを適用する。
 - ア. 80分を越えて新しいイニングに入らないものとする。
 - イ. 7イニングまで達した場合は、規定時間に達していても終了とする。
 - ウ. 5回以後7点差の場合はコールドゲームとする。
 - エ. 決勝戦は7回とする。同点の場合は8回よりタイブレーカーを適用する。時間制限なし。
 - オ. タイブレーカーは継続打順とし、前回の最終打者を2塁走者とし、無死2塁の状態から1イニングを行い、得点の多いチームを勝ちとする。

なお、タイブレーカーを実施しても勝敗が決しない場合、抽選により勝敗を決定する。(決勝戦を除く)

7. 表彰

- ① 決勝戦終了後、閉会式において行う。
- ② 個人賞のうち選考最優秀打者賞は、ベスト3チームの全試合を選考基準対象とし、指定打席(12打席)を設けて、最高打率によるものとする。

8. 組み合わせ

監督・主将会議において、大会の組合せ抽選を行う。

9. 競技用具

- ① バット、ヘルメット(JSA)の点検をし、規定以外のもの及び危険と思われる用具は、試合終了まで、競技場本部席で保管する。試合終了後、受け取りにくること。
- ② 1チームの選手のユニフォームは同色、同衣装で統一された品位あるものであること。また、帽子は同一のものとする。靴は同色のものを使用しなければならない。
- ③ 背番号は監督 30 番・コーチ 31 番・主将 10 番・選手は1番から 99 番までとする。胸番号も同一とし胸に付けなければならない。
- ④ 攻撃中の打者、走者はヘルメットを着用しなければならない。
- ⑤ 守備中の捕手は、スロートガード付きマスク、ヘルメット、レガースを着用しなければならない。または、ボディプロテクターを着用しなければならない。
- ⑥ 準備投球の時、競技場内のいかなる場所で投球練習する時でも、捕球する者は必ずスロートガード付きマスク・捕手用ヘルメットを着用しなければならない。
- ⑦ 金属製スパイク使用は認めない。また、危険行為をした場合は退場とする。

10. 注意事項

(1) 競技開始まで

- ① 試合開始予定時刻の 30 分前、または前の試合 5 回終了時までには、試合会場に集合すること。遅れた場合は原則として棄権とみなす。
- ② 打順表は、試合開始予定時刻の 30 分前、または前の試合 5 回終了時までには、打順表(4 枚1組複写)に必要事項を記入し、必ずふりがなをつけて球場本部に提出すること。相手のチーム打順表は審判・記録員の照合、確認のうえ審判員より受けとる。
- ③ 攻守順の決定は、打順表提出時、審判員立会いのもと「コイン」のトスによって決定する。「コイン」の裏表は先着(打順表持参)チームに優先権を与える。
- ④ 競技者席は組み合わせ番号の若い方を一塁側とする。ベンチに入る人数は要項で定められた者以内とする。
- ⑤ フィールディング
 - (ア) 競技場に入ることを許されたメンバーで行うこと。
 - (イ) 後攻チームより 5 分間とし、審判員の指示に従うこと。
 - (ウ) 大会進行上、時間の短縮及び省略することもある。

(2) 競技開始

- ① 「集合準備」の指示で自己のベンチ前に一列横隊に立つ。
- ② 「集合」の号令と同時に駆け足でホームプレートをはさんで整列する。

(3) 攻守交替、選手交替

- ① すべて駆け足で敏速に交替を行うこと。
- ② 選手の交替は、監督が球審にすみやかにその旨、通告すること。
- ③ 再出場の時のみ、選手交替届出用紙を提出すること。

(4) 攻守交替のボール

- ① 特に指示がない場合はピッチャープレートの近くに置く。
- ② 試合終了時は審判員に渡す。

11. 競技場

- ① ダブルベースを使用する。
- ② 外野フェンスを設営すること。

12. その他

- ① 審判員の判定に基づく判定に対して抗議することは許されない。ルール上の疑義については、監督またはコーチに限りこれをただすことができる。
- ② 小雨でも決行するが、万一試合を中止、又は開始時刻を変更する場合は大会本部から各チームに連絡する。また、午前中雨天でも、天候の回復状況により試合を開始することもある。
- ③ 第1試合開始前に始球式を行う。
- ④ 実行委員会は大会参加申込締切後、参加チームが 18 か 19 に満たない場合、すぐ日本ろう者スポーツ協会事務局にその旨を伝えること。

13. 本要項の改正

- ・一部改正 2004年2月22日 第6回全国委員会

10. 第13回バドミントン競技実施要項

1. 競技種目

シングルス 男子シングル1部・2部 女子シングル1部・2部
ダブルス 男子ダブルス1部・2部 女子ダブルス1部・2部 混合ダブルス

2. 競技規則

大会開催年度の(財)日本バドミントン協会競技規則並びに本大会運営規定による。

3. 出場資格

- ① 一部と二部に区別する。一部は過去の大会でベスト8以上か、国際大会出場を目指す選手(ベスト9以下も可)。二部は、一部を希望しない選手。

※〔本大会申合せ事項〕を参照。

- ② 出場人数について、加盟団体毎に参加制限をしない。
③ 同一選手は、2種目までエントリーできる。
④ ダブルスのペアは、加盟団体内で組めない場合、大会競技実施要項規定6の(2)により、ブロック外の他県選手と組むことが出来る。

4. 競技方法

各種目ともトーナメント方式で行う。但し、参加状況により、予選リーグ、決勝トーナメント方式で行うことがある。競技方法の決定は競技主管で行う。

5. 使用シャトル

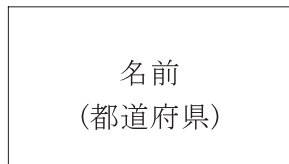
(財)日本バドミントン協会検定合格品とする。

6. 組み合わせ

- ① 参加申込み締切り後、実行委員会において審判長立会いのもとで、代理抽選により決定する。
② 男女シングルスは前回4位まで、ダブルスは混合ダブルスを除いて男女とも前回2位までをシードする。

7. 競技服装

- ① 服装は(財)日本バドミントン協会審査合格品を着用するものとする。
② 選手は着衣の背部にゼッケンをつけるものとする。
③ ゼッケンの名前で読みにくいものはふりがなをつける。



たて 18cm

よこ 25cm ※白地に黒字

8. 表彰

各種目とも、競技終了後閉会式において行う。

9. 注意事項

- ① 試合は、15点(女子シングルスのみ11点)の2ゲーム先取の3ゲームとする。
- ② 試合の1ゲームと2ゲームの間に90秒を越えないインターバルを、そして第2ゲームと第3ゲームの間に5分を越えないインターバルを認める。
- ③ 選手はコールを受けた後、5分以内にコートに入ること。
- ④ 審判員の判定に対して疑問のある場合は当該プレーヤーに限り質問することを認める。ただし、抗議あるいは異議であってはならない。
- ⑤ タイムテーブルはあくまでも予定時間であり、時間が早まる場合もあるので、場内放送(提示)に特に注意すること。
- ⑥ 審判員の合図について
 - (1) 「アウト」は両腕を水平に広げて合図する。
 - (2) 「イン」は右手でそのラインを指す。
 - (3) 「フォルト」は手を軽く握り、親指を立てて前につきだす。
 - (4) 「レット」(無効を意味し、やり直し)は、両手を軽く握り、親指を立てて前につきだす。
 - (5) 「エンドの交代」は、両手を左右に伸ばし、それを前で交差させて示す。
- ⑦ プレーヤーは次の行為をしてはならない。
 - (1) プレーを故意に遅らせたり、または中断すること。
 - (2) シャトルのスピードや飛び方を変えるために故意にシャトルに手を加えたり破損したりすること。
 - (3) 見苦しい服装でプレーをしたり、審判員や観客に対して横柄な振る舞いをしたりするような、下品で無礼な態度、言動。
 - (4) ラケットや体でネットなどのコート施設を叩くとか、耳障りな掛け声や叫び声を発するなど、競技規則を越えた品行または不快な行動。

10. 本要項の改正

- ・一部改正 2004年2月22日 第6回全国委員会

〔本大会申合せ事項〕

1. 出場資格

- ① 一部に登録した選手は、二部に申し込むことが出来ない。

11. 第6回バスケットボール競技実施要項

1. 競技種目

バスケットボール競技(男・女)

2. 競技規定

大会開催年度の(財)日本バスケットボール協会競技規則による。

3. 出場資格

(1) 出場方法の優先順位は次の通りとする。

- ① 加盟団体単位で、2チーム以上出場できる。
- ② ①項で編成できない場合は、当該のブロック内に限り、連合チームを編成することができる。但し、連合チームは連合であることが明らかなチーム名にすること。
- ③ ②項で編成できない場合、その当該ブロックを超えてチームを編成できる。

(2) コーチ、又はマネージャーが選手を兼ねる場合は選手名簿にも登録されていなければ、選手として出場できない。

4. チームの編成

- ① 1チームの編成は、コーチ1人、アシスタントコーチ1人以内、選手15人以内、チーム関係者(部長、マネージャー、スコアラーなど)を含めて20人以内とする。
- ② 全国ろうあ者体育大会『競技実施要項規定』内にある『監督』の任務は、コーチが行うものとする。
- ③ 団体戦
 - 1) 基本的には同県からの参加者で構成する。
 - 2) 数が足りない時は、ブロック内から補強ができる。
 - 3) ブロック内から補強が出来ない場合は、他のブロックから補強ができる。

5. 競技方法

- ① 競技は、3チーム以上の参加により実施する。原則的にトーナメント方式とするが、出場チーム数によってはリーグ戦とすることがある。
- ② 本大会の出場チーム数は、地元代表チームを含めて16チーム以内とする。
- ③ 試合の時間は、10分のピリオドを4回行う。第1ピリオドと第2ピリオドの間、第3ピリオドと第4ピリオドの間に2分のインターバルをおく。ハーフタイムは10分とする。
- ④ 第4ピリオドが終わった時、両チームの得点と同じならば、1回5分の延長時限を必要な回数だけ行う。各延長時限の前のインターバルは2分とする。

6. 使用球

試合球は、日本バスケットボール協会公認7号球とする。[本大会申合せ事項参照]

7. 組み合わせ抽選

- ① 監督・主将会議において抽選を行う。
- ② 男女とも前回優勝・準優勝チーム(6チーム以上は3,4位とも)をシードとする。
- ③ トーナメントの場合、ベスト4チームのブロックに、同ブロックのチームが入らないように抽選を行う。

8. 注意要項

(1) ユニフォーム

- ① ユニフォームは、胸部と背中にユニフォームの色とはっきり区別できる単色の番号をつける。4から始まる一連の番号を用いる。
- ② ユニフォームは、チーム名及び都道府県名を胸部に明記し、着用すること。なお、都道府県名の

みでも可とする。

- ③ ユニフォームは、組み合わせの若い番号のチームを淡色(白)とし、淡色と濃色の2種類を用意すること。

(2)チームベンチ

- ① ベンチは、組み合わせの若い番号のチームがオフィシャル席に向かって右側とする。
- ② 登録されたコーチ、アシスタントコーチ、選手、チーム関係者以外は、ベンチに入ってはならない。

(3)練習

エントリーメンバー以外の者は、ゲーム前のアップやハーフタイムの練習もコートに入ることはできない。

(4)メンバー用紙

メンバー用紙は、前試合のハーフタイム(第1試合は開始10分前)までに本部席(メンバー表受付場所)に提出する。

(5)前試合が遅れた場合の処置

前試合が遅れた場合は、前試合終了10分後に開始する。

(6)チャージド・タイムアウトの取り方

各チームは、第1、第2、第3ピリオドに1回ずつ、第4ピリオドに2回、各延長時限には1回ずつのチャージド・タイムアウトを取ることができる。それぞれのチャージド・タイムアウトは1分間とする。

(7)プレイヤーが身につけるものについて認められないもの

- ① 指、手、手首、前腕、ひじの防具で、皮革、プラスチック、ソフトプラスチック、金属のほか硬い素材で作られているもの。これらの防具は表面を柔らかい素材で覆ってあっても使用してはならない。
- ② 他のプレイヤーに切り傷や擦り傷を与えるようなもの。髪飾り、頭にかぶるもの。貴石、宝石類(指輪、チェーン、ピアスなど)、補聴器。ペイント。

(8)審判について

- ① フラッグを配置し、審判の笛をランプで知らせるようにする。
- ② 審判は準決勝以上では、A級審判員を配置する。

9. 本要項の改正

- ・一部改正 2004年2月22日 第6回全国委員会
- ・一部改正 2005年2月27日 第7回全国委員会

〔本大会申合せ事項〕

1. 試合球は、男子は日本バスケットボール協会公認7号級とし、女子は同協会公認6号球とする。